

派遣者番号	管R4K12	氏名	加藤 美千子
研究主題 —副主題—	特別支援学級を担当する教師の人材育成に関する研究 —【中学校・知的障害】特別支援学級担当教諭等の専門性に係る育成指標(試案)の開発を通して—		
派遣先大学	東京学芸大学 教職大学院	指導担当者	奥住 秀之
所属	東久留米市立西中学校	所属長	藪野 勝久

キーワード： 特別支援学級 人材育成 専門性 育成指標

**要旨：** 近年、特別支援教育に関わる教師の資質向上が課題となっている。本研究は、特別支援学級担当教師の人材育成に関する具体的な方策を提案すること、中学校知的障害特別支援学級担当教師の専門性に係る育成指標を開発することを目的とした。

基礎研究では、教員研修制度や専門性に関する文献調査を実施した。調査研究では、区市町村教育委員会・学校・学級における研究・研修の実施状況について都内3地域の公立中学校特別支援学級の訪問調査を実施した。開発研究では、基礎研究及び調査研究を基に、特別支援学級担当教師の成長段階に応じた「身に付けるべき専門性」を指標で示した。この指標の開発により、特別支援学級担当教師が、自己の現時点における専門性の把握や、キャリアアップを図るための目標設定等の一助となることが期待できる。

## 特別支援学級を担当する教師の人材育成に関する研究

－【中学校・知的障害】特別支援学級担当教諭等の専門性に係る育成指標（試案）の開発を通して－

加藤 美千子

### 1 研究の背景と目的

平成 29 年告示の学習指導要領では、特別支援学校と幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教育課程との連続性が重視されるなど、障害のある児童・生徒の学びの場について、環境整備が図られ、柔軟で連続性のあるものになりつつある。今後は、多様な学びの場において、特別支援教育の専門性向上を図ることが課題となってくるだろう。

しかし、国立特別支援教育総合研究所の全国調査（2018）では、特別支援学級担当教師（以下「特支学級担任」という）は、特別支援教育の経験年数が浅く、担任の入れ替わる期間が短いことが報告されている。このような状況の中では、日常的な業務を通して専門的な助言を受けることが難しく、特支学級の専門性の維持・向上を図るためには、教師が自律的に研究と修養に励むことが求められる。

現在、教員研修制度は大きな転換期を迎えている。令和 5 年 4 月から、教育委員会による教員の研修履歴の記録の作成と、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の仕組みが施行される。この改正を受け、教育委員会による教員育成指標の策定と指標に基づく研修計画及び実施が行われる。

そこで、本研究は、特支学級の専門性向上を目指し、特支学級担任の人材育成に関する具体的な方策を提案すること、特支学級に求められる専門性を分析し、「【中学校・知的障害】特別支援学級担当教諭等の専門性に係る育成指標」を開発することを目的とする。

### 2 研究の方法

#### (1) 基礎研究

研究の目的に達するために、以下の文献研究を実施した。

- ・初任者研修創設から現在に至るまでの教員人材育成に関する法改正及び政策の経緯
- ・新たな教員研修制度における各機関及び職種別の役割
- ・特支学級担任に求められる専門性について言及している答申・報告・通知等
- ・特支学級の職務遂行に必要な資質・能力
- ・全国の都道府県及び政令指定都市教育委員会が策定している「教員育成指標」
- ・東京都教育委員会が実施している特別支援教育に関する研修

#### (2) 調査研究

都内 3 地域の公立中学校特支学級担任 3 名を対象に半構造化面接を実施した。区市町村教育委員会が実施している研究・研修の状況、校内研究・校内研修の状況、特支学級内の研究・研修の状況を調査した。また、特支学級担任が身に付けるべき資質・能力に関する教師の意識について調査した。

#### (3) 開発研究

基礎研究及び調査研究に基づき、中学校知的障害特支学級担任が身に付けるべき専門性について、具体的な資質・能力を指標で示した。

#### (4) 検証研究

都内 3 地域の公立中学校特支学級担任 3 名を対象に半構造化面接を実施した。考案した育成指標について評価を行い、開発物の改善を図った。

### 3 研究の結果

#### (1) 特支学級担任の人材育成の具体的な方策

図1は、基礎研究及び調査研究を基にして考えた「これからの特別支援学級担当教師の学びの姿」のイメージである。

具体的な方策としては、学校や教師の実情を把握している区市町村教育委員会が主体となり、①学校間連携・協力体制を図ること②特別支援教育の研修推進を担う地域の中核となる教師を育成すること③特別支援教育の専門性を有する教師を計画的に育成するために、バランスの取れた人事配置を工夫すること④特支学級担任を対象とした研修プログラムの充実を図ることを提案する。

#### (2) 開発物【中学校・知的障害】特別支援学級担当教諭等の専門性に係る育成指標（試案）

表1は、基礎研究及び調査研究を基に開発した「育成指標」を一部抜粋して示した。教師の成長段階は「新任者」「中堅者」「指導者」の3段階とした。身に付けるべき専門性の区分は、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和3年1月26日 中央教育審議会）において、特支学級担任に求められる専門性として示された「特別な教育課程の編成方法」「個別の教育支援計画と個別指導計画の作成方法」「障害の特性等に応じた指導方法」「自立活動を実施する力」「障害のある児童・生徒の保護者支援方法」「関係者間との連携の方法」「各教科等の目標が異なる児童・生徒を同時に指導する実践力」とした。

表1【中学校・知的障害】特別支援学級担当教諭等の専門性に係る育成指標（試案）（一部抜粋）

	新任者（教諭）特別支援教育1～8年目	中堅者（主任教諭）特別支援教育9年目～	指導者（指導教諭・主幹教諭）
特別な教育課程の編成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程に関する法令や学習指導要領（小学校・中学校・特別支援学校）等の知識を有しており、知的障害者の教育課程編成の基本的な考え方を理解している。</li> <li>生徒一人一人の障害の状態や特性、心身の発達段階等を把握することができる。</li> <li>学習指導要領に示されている各教科等の目標や内容を踏まえ、担当する教科等の指導計画を作成できる。（指導計画は、年間・学期指導計画、単元計画、学習指導案、個別指導計画等）</li> <li>学習指導要領を基に設定した各教科等の指導目標を踏まえ、生徒一人一人の実態に応じて、個別の指導目標及び指導内容を設定できる。</li> <li>中学校卒業後の多様な進路に関する知識を有し、生徒一人一人の障害の状態等に応じた進路指導を進めることができる。</li> <li>障害者の就労に関する知識を有し、職業生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程編成に関する東京都及び区市町村教育委員会の規則や方針を理解している。</li> <li>生徒一人一人の障害の実態、学級の生徒集団の状況、学区の実情等を把握することができる。</li> <li>学習指導要領に示されている各教科等の目標や内容を整理し、教科別指導と各教科等を合わせた指導の指導形態を適切に組み合わせる指導計画を作成できる。</li> <li>各教科間の指導内容相互の関連を図りながら、学級全体の各教科等の指導計画を作成できる。</li> <li>在籍する生徒の障害の状態等を考慮し、発展的・系統的な指導が進められるように、学級全体の各教科等の指導内容を配列し組織できる。</li> <li>進路指導やキャリア教育を効果的に進めるため、特別支援学級のキャリア教育全体計画を作成し、3年間を通して、組織的・計画的な取組を図ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する法改正や政策の経緯等の知識を有しており、国の動向に注視するとともに、東京都及び区市町村教育委員会の特別支援教育推進計画を理解している。</li> <li>地域の特別支援学級（小・中学校）の状況、保護者を含む地域住民の意向、地域の資源や実情等を把握することができる。</li> <li>学校教育目標の実現に向け、特別支援学校高等部卒業までを見据えた特別支援学級の教育課程を編成できる。生徒、学校・学級や地域の実態を考慮して、全体として調和のとれた具体的な指導計画の作成に向けて、指導・助言できる。</li> <li>生徒のキャリア発達の促進を図るため、地域・社会の資源を活用して社会に開かれた教育課程を展開することについて指導・助言できる。</li> </ul>

#### 4 研究の成果と課題

本研究の成果は、特支学級の育成指標の開発を通して、教師の成長段階に応じた専門性を具体的に把握できるようになったことである。特支学級担任の活用例としては、自己の現時点における専門性を把握すること、キャリアアップを図るための目標設定の参考にすること、担任間のOJTを促進し若手教師の育成を図ること等が考えられる。管理職の活用例としては、対話に基づく受講奨励の参考にすること、長期的な視点に立った特支学級担任の人材育成を図ること等が考えられる。教育委員会の活用例としては、研修プログラムの開発、地域の特別支援教育推進の中核となる教師の育成を図ること、人事配置の参考とすること等が考えられる。しかし、育成指標の活用までは至っていない。今後は、効果の検証を行い、更なる改良が必要である。

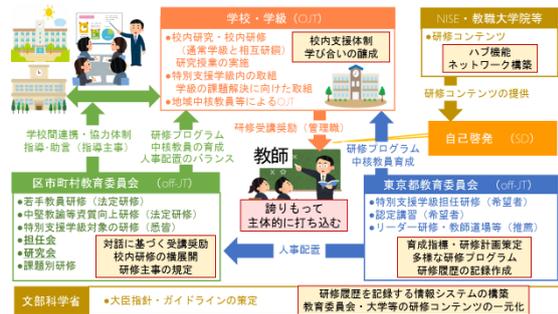


図1 これからの特別支援学級担当教師の学びの姿イメージ